



人との結びつきを大事にし、レベルアップしていきたい

脱サラして自ら農家へ  
おおよし たつろう  
大吉 達郎さん（竹垣）

明野中学校から土浦一高に進学。都内の大学を卒業後、保険会社に就職。5年前に退職し、実家の農業（水稻、麦、大豆など）を継承。

### 農家を継いだきっかけ

都内にいるところから、繁忙期に実家の手伝いをしていて、耕作放棄地があるなど後継者不足の現状を目の当たりにしたことがきっかけです。

サラリーマンの代わりはいくらでもいますが、農家の代わりはなかなかいません。それならば自分が農家をやろうと思いました。

### 農業の難しさを痛感

農業を本格的に始めるまでは、米作りを簡単に考えていました。実際に始めてみると、機械のメンテナンスや税の申告、土地の所有者との折衝など苦勞の連続でした。農家の仕事が多岐に渡り大変であることを痛感しましたね。

その分、自分が作った米をおいしいと言ってもらえたときや農家の仲間が増えて横のつながりができたことが、とてもうれしく感じます。

### 自分だけでなくみんなで

今後も、人との結びつきを大事にしていきたいです。そして、自分のことだけでなく地域の農業を考え、レベルを高めるために努力していきたいです。



# 農業産出額 県内第2位を誇る 筑西の米

## 筑西市の米作り

筑西市は、平坦な地形と鬼怒川・小貝川など多くの河川・支流が南北に流れ、その周辺は大昔の氾濫により肥沃な農地が広がっています。その広大な土地は、土地改良事業により農地の大区画化、用排水路や農道が整備され、米作りに最適な環境が整えられています。米は筑西市を代表する農作物であり、農家のみなさんが、手間を惜しまず、丹念に作り上げています。

米の農業産出額は68億9千万円で、県内第2位の数字を誇ります。

## 米ができるまで

**3月 田起こし（耕起）** 米作りは、田起こしから始まります。トラクターで耕起することで、土の中に空気が入って微生物による分解が促進されます。また、排水性・通気性が良くなり稲の根がよく育ちます。

**4月 種まき** ベルトコンベア式の播種機はし。を使い、育苗箱へ効率的に種をまきます。その後は、育苗用のビニールハウスなどで、苗を大きくします。

**5月 代掻き** 水を張った水田を、トラクターで土を砕いて均平にしていく田植え前の大切な作業です。

**田植え** ハウスなどで育てた苗を、田植機で移植します。

**6月 施肥・除草** 気温や日照による生育を見ながら、水の管理と肥料を与えます。

**7～8月 病害虫防除** いもち病や縞葉枯病しまはがれ

など、稲特有の病気や害虫を防ぐため、ヘリコプターによる航空防除を行います。

最近では、無人ヘリコプターやドローンなど、作業を省力化できるさまざまな機械が登場しています。

**9月 稲刈り** 種まきから約150日、水田一面が黄金色に輝き出す頃に収穫します。収穫後は不良な籾を取り除き、貯蔵に向くように乾燥させます。

## これからの農業

筑西市に限らず、農家の高齢化、後継者不足は、継続した課題となっています。そのため、GPSを利用した自動運転田植機、ドローンによる肥料・農薬の散布、気象データやAI（人工知能）の活用など、新しい技術を利用し、作業の省力化や効率化を図ることで、課題を解決することが期待されています。